

「昔から努力家」

故郷仙台の恩師ら感慨

ソチ冬季五輪フィギュアスケート男子で、羽生結弦選手(19)が頂点をつかんだ15日、故郷仙台市の関係者はテレビに映った勇姿を感慨深げに見詰めた。表彰台の真ん中で

はにかむ羽生選手を見守ってきた人たちが明かすエピソードで、天才スケーターの生い立ちを振り返る。

羽生選手が通った仙台市泉区のアイスリンク仙台のスタッフで、長野五輪ペア代表の荒井万里絵さん(32)は「合宿で、できないうちに粘って挑んでいた」と努力家の印象を持つ。東北高の五十嵐一弥校長(68)は集中力の高

瞬間

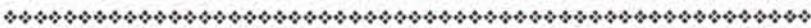
羽生 結弦

ぼくがこの六年間で一番心に残ったことはスケートのことですか。楽しかったこと、くやしかったことなどいろいろ学びました。

ぼくがスケートを始めてから五年経った。四年の時、初めて全日本へ入る機会が来ました。初めて出場する全日本、ぼくは、まんまようよりも、ワクワクしていました。「絶対に優勝してやる」と思いついた。いつもよりも練習に励みました。そして当日、ぼくの出番は何と一番、クレーアの。皆に「一番は大変だよ、でもがんばってね」と言われると、「一番は得意だから大丈夫」と言って、皆の、そして自分のまんまようもほざきました。

「一番、羽生結弦君」という合図と一緒にぼくの演技は始まりました。ぼくは何も考えずに無邪気に滑りました。最後のポーズを終えた瞬間、大勢の観客が大きな手をもちました。あり、瞬間は今も忘れてはいません。とてもうれしかったです。そして「観客に感謝したい」と初めて思いました。

ぼくはこの大会で「観客に感謝したい」という気持ちを書きました。これからはスケートを続けていこうなことを学んでいきたいです。



七北田小の卒業アルバム。羽生選手はスケートの思い出をつづっている

(2014年2月16日河北新報朝刊、記事の一部を抜粋)

①フィギュアスケートの羽生結弦選手は、小学校4年生で初出場した全日本大会で、どんなことを学びましたか。羽生選手の作文を読んで、答えましょう。

②羽生選手は、小学校の時から五輪出場を目標に努力を重ね、19歳で見事に金メダルを獲得しました。あなたの夢や目標は何ですか。

- ・夢や目標 ()
- ・努力したいこと ()

年 組 名前